

芸術選奨受賞の快挙

日本画家・山本直彰さん 6期生



左から山本氏、同期の黒須氏(黒須氏のお店にて)



「帰還」シリーズ

6期生で日本画家の山本直彰さんが、文化庁主催の「平成21年度芸術選奨文部科学大臣賞」を美術部門において受賞されました。

この「芸術選奨」は、美術、演劇、映画、音楽など11分野において、その年に顕著な活躍を見せた人物に贈られるもので、文化庁の「芸術選奨」のホームページを見ると、過去の受賞者には誰もが知る著名人がずらりと大変な大賞名譽な賞です。

そもそも、「日本画」とはどういうものをいうのでしょうか。知っているようでわからないので、山本さんに聞いてみたところ、広義では、江戸時代以前の襖絵

や屏風画などの作品も指すこともあるようですが、これを「日本美術」と呼び分け、明治期以降、西洋から流入した「洋画」に負けまいと対抗し、日本独自の伝統的技法を用いて描かれた絵画を「日本画」と呼ぶとすることです。

油絵のようにチューブ絵の具で描かれる「洋画」に對して、天然の鉱石を砕いて粉末状にした顔料を、固着材として膠(ニカワ)で混ぜた「岩絵の具」が主に使用されるのが、「日本画」の大きな特徴といえます。

山本さんは「脱・日本画」とか「日本画の改革者」と評され注目されていますが、今日までの道のりは苦

勞の連続だったようです。山本さんは、中学1年生のときに野球部でしたがあまりうまくいかず、1年生の途中で美術部に転部しました。そこで、当時、新任まもない若かりしころの菊地先生に出会ったことが大きな転機になったようです。菊地先生は年も近いこともあり、自分のお兄さんというように楽しく過ごせ、美術部はオアシスそのものだったとい、それがきっかけで絵の道にのめりこんでいったそうです。

しかし、聖光時代、自分は決して絵が上手とはいえない自分が芸大を目指してよくなったと、自分よりも絵が上手な人間が何人かいたにもかかわらず、こんな自分がかつてないといま

博報堂で37年間クリエイティブをやった、去年退職したんですが、その1年前に東京工芸大学からオファーがあって、芸術学部で非常勤講師をしていました。で、その授業が面白くなって、ある人が教室に潜入したらしく

て、書かないかーって話があった。書くのは大変なんだけど、語り下ろしましたけど。学生というより若い女の子向けに「人生のテキスト」ふうにしてあります。広告の発想法が、人間関係や恋愛とか人生のいろんなシーンで使えるよ、って話

です。この本がきっかけで10年勤めた会社を辞めて飛び出した女性や、社員教育に使いたいとまとめて注文してくれた名古屋の会社とか、そんな話を聞くと、こんなんでよかったのかーなんて、ちょっと心が痛んだりもしますけどね。



4年ぶりに開催された同朋会に顔をそろえたのは50名程度でしたが、楽しい時間を共有することができました。在学中にお世話になった荻江先生と小泉先生にも参加して頂き、楽しい

て、今の自分を形成する上で大変よかったと山本さんはいいます。

山本さんの絵画を調べてみると、その画風を評するものの中には、「緊迫感」、「絶望」、「沈鬱」などといった言葉をよくみかけます。山本さん自身も、苦しみの中でこそ本当の絵が描ける、と言っていました。

今までの枠にとらわれず自由。これが、山本さんが「改革者」と呼ばれるゆえんなのかもしれません。

写真の絵は、山本さんの代表作である「帰還」シリーズのひとつですが、あなたはこの絵を見てどう思いますか。何を感じますか。自由に眺めてみてくださ

8期卒業生の同期会が今年の11月13日(金、横浜駅近くのホテルで開催されます。毎回参加者が近況を報告、病氣自慢や若い頃の武勇伝、家族や孫の話と盛り上がり、楽しい会になっています。8期生の方は是非ご参加下さい。開催案内をお送りしますので、返信

用はがきに出欠をご記入の上、期日までにご回答頂きましょう。「グルメしましょう」「スポーツしましょう」等のコミュニケーションがあります。招待制のサイトですが、8期生であればどなたでもご利用頂けます。招待制サイトの利用方法についても代表幹事吉井淳までご連絡下さい。

5月22日土曜日、38期の同朋会を聖光学院ポワトラホールにて開催しました。卒業10年目に当たる今年、4年ぶりに開催された同朋会に顔をそろえたのは50名程度でしたが、楽しい時間を共有することができました。在学中にお世話になった荻江先生と小泉先生にも参加して頂き、楽しい

昔話は尽きることなく、学内で催された1次会はあつという間に閉会となりました。

校舎の建て替えを控えていることもあったため、閉会後も校舎内を彷徨し、警備員の方にはご迷惑をおかけしました。在学当時の面影を残す様々なモノ、教室の黒板や図書館の奥まで、

第2回聖光学院シニア会
会長：佐々木 裕 (4期生)
幹事：能勢 俊一 (5期生)
井上 純太郎 (6期生、校友会会長)
大塚 幸裕 (6期生、校友会副会長)
以上

8期同期会開催します



第2回 聖光学院シニア会のご案内

日：2010年10月16日(土曜日)
時：17時より
場所：聖光学院食堂(2F)

第1期から第6期生の皆様へ

2009年6月12日、ホテルニューグランドにて第1回の聖光学院シニア会を開催しました。多数の卒業生、恩師その他の方のご参加をいただき大変楽しい会となりました。つきましては、第2回聖光学院シニア会を上記日程にて準備をしているところです。今回は6期生が加わるようになります。近くなりましたらご連絡致します。

第2回聖光学院シニア会
会長：佐々木 裕 (4期生)
幹事：能勢 俊一 (5期生)
井上 純太郎 (6期生、校友会会長)
大塚 幸裕 (6期生、校友会副会長)
以上

「広告の発想法で、人生ぜんぶうまくいく。」

(小学館スクウェア 2009年8月刊 税込1,000円)

5期 藤島 康

て、書かないかーって話があった。書くのは大変なんだけど、語り下ろしましたけど。学生というより若い女の子向けに「人生のテキスト」ふうにしてあります。広告の発想法が、人間関係や恋愛とか人生のいろんなシーンで使えるよ、って話

です。この本がきっかけで10年勤めた会社を辞めて飛び出した女性や、社員教育に使いたいとまとめて注文してくれた名古屋の会社とか、そんな話を聞くと、こんなんでよかったのかーなんて、ちょっと心が痛んだりもしますけどね。



4年ぶりに開催された同朋会に顔をそろえたのは50名程度でしたが、楽しい時間を共有することができました。在学中にお世話になった荻江先生と小泉先生にも参加して頂き、楽しい